

パーソナルデータの安全・安心な利活用をめざす日立

ビッグデータやIoT、人工知能などに関する技術やサービスが進展するなか、生活者のパーソナルデータ（個人に関する情報）が各方面で利活用されるシーンが増えています。そこで日立は組織的な運用によるプライバシー保護への取り組みを積極的に推進しており、その一環として生活者意識の現状を定期的に調査しています。

三回目となるパーソナルデータに関する意識調査

スマートフォンやWebなどから収集されるパーソナルデータを新たなビジネス創造に生かすには、その利活用に対する生活者意識の実態を調査し、個人の懸念の払拭とリスクの最小化をめざす取り組みが不可欠です。

そこで日立と株式会社 博報堂は、両社におけるビッグデータ利活用の事業推進の一環として、2013年の第一回、2014年の第二回に続き、「第三回 ビッグデータで取り扱う生活者情報に関する意識調査」*を2016年に実施しました。

その結果、パーソナルデータの利活用について「不安が期待より大きい」という回答が前回より微増したものの、企業が「いつでも利用を停止できる」「利用終了後、適切に破棄する」といった適切なプライバシー対策を講じることで、不安や抵抗感が軽減することが明らかとなりました（図1、2）。また、パーソナルデータに対する知識・関心度と期待/不安の度合いを掛け合わせてマップ化すると、知識・不安が中程度の層は、期待層と不安層

に二分化されることがわかり、企業には適切な情報発信と、適切なプライバシー保護施策の双方の取り組みが必要であることが示唆されました（図3）。

* 調査日:2016年9月15日、調査手法:インターネット調査、対象者:全国20~60代男女計1,030名

新たな価値創出を安心して行える環境をめざして

日立は2014年7月より、情報・通信システム事業関連部門にプライバシー保護対策を統括する「パーソナルデータ責任者」と、具体的なリスク評価や対応策の立案を支援する「プライバシー保護諮問委員会」を設置。日立がサービスを提供する場合だけでなく、お客さまのサービスの運用を支援する際にも独自のチェックリストに基づくプライバシー影響評価を実施し、適切にパーソナルデータを取り扱うよう努めてきました。今後もプライバシー保護の取り組みを推進し、新たな価値創出を安心して行える環境づくりをめざしていきます。

Q 企業や公的機関などによるパーソナルデータの活用に関して、どのように感じますか。「活用への期待」と「リスクに対する不安」のどちらが大きいかをお答えください。

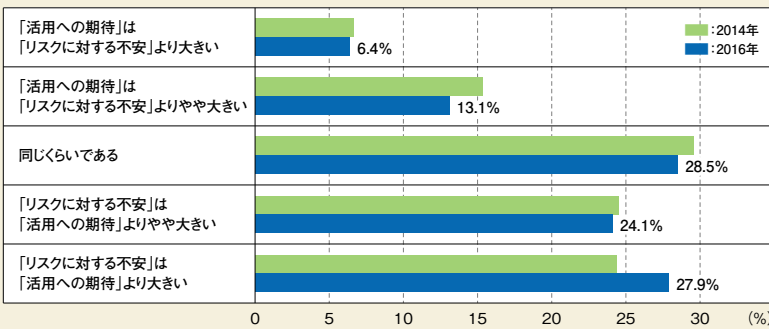


図1 パーソナルデータ活用の「期待と不安」

「活用への期待」「リスクに対する不安」大きさ比較（縦軸）と「パーソナルデータに対する知識・関心度（横軸）」とのクラスタ分析

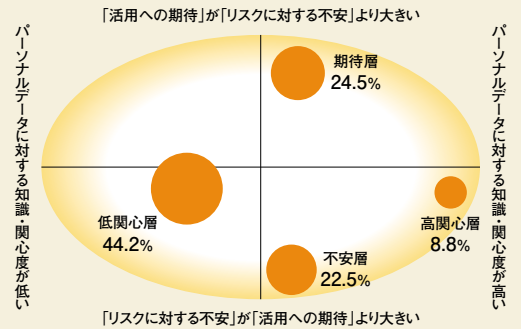


図3 パーソナルデータに対する知識・関心度と期待/不安の度合い

不安要因として主要な3項目を回答した方々の「不安が軽減する」「やや不安が軽減する」上位施策

不安を感じる主な理由 (該当者数)	利用に対する拒否権がない (n=542)		当初と異なる目的での利用 (n=478)		説明・公表が不十分 (n=466)		
	順位	割合	順位	割合	順位	割合	
不安が軽減する対策	1位	本人からの求めがあれば、いつでもパーソナルデータの利用を停止する	77.5%	本人からの求めがあれば、いつでもパーソナルデータの利用を停止する	77.8%	本人からの求めがあれば、いつでもパーソナルデータの利用を停止する	74.5%
	2位	利用終了後、パーソナルデータを適切に破棄する	73.6%	利用終了後、パーソナルデータを適切に破棄する	77.0%	利用終了後、パーソナルデータを適切に破棄する	71.0%
	3位	パーソナルデータを第三者に提供しないこと、または提供の場合は同意取得する	73.4%	利用するパーソナルデータを限定する	76.6%	パーソナルデータの利用目的を限定、明確化する	70.8%

図2 「不安が軽減する」「やや不安が軽減する」上位施策

お問い合わせ先

(株)日立製作所 サービスプラットフォーム事業本部
サイバーセキュリティ事業統括本部

■ 情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/bigdata/>
<http://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2016/12/1202a.html>